

1  
研究

## JAXA 宇宙科学研究所と連携協定締結 本学教員が科学責任者 (PI) として X線天文衛星代替機の計画推進

Vol. 12  
August  
2017



6月16日、大学院理工学研究科と国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(以下「JAXA」)宇宙科学研究所は連携協力に関する協定を締結しました。この協定は、JAXA 宇宙科学研究所が様々な衛星・探査機を使って収集する天体観測データを、広く当該分野以外の研究者でも容易に活用できるように、大学院理工学研究科の戦略的研究部門「X線・光赤外線宇宙物理領域」とJAXA 宇宙科学研究所が協力して、天体観測データの処理・アーカイブ・機器校正データベースと解析ソフトウェアの開発、及び人材育成を行うことを目的としています。

宇宙科学研究所が天文観測衛星の開発を通じて進めてきた装置開発とデータアーカイブ、ユーザーサポートの領域で培ったこれまでの蓄積と、大学として独自に進めてきた多波長にまたがる研究ネットワークを結合することで、天文観測衛星などから得られるデータを、より広く国内外の大学の研究者が利用しやすくなるよう、データの標準化やユーザーサポートを進めます。特に、X線天文衛星代替機(「ひとみ」ASTRO-Hの代替機)の計画においては、「X線・光赤外線宇宙物理領域」(2017年4月開設)領域長の田代信教授が、宇宙科学研究所とのクロスアポイントメント(混合給与)制度の活用により、両機関に籍を置きつつ、本計画の科学責任者(PI)として推進します。



▲ 講演する田代教授



▲ 学生の質問に答える満田研究総主幹

▲(左から)山口学長、田代教授、堀尾研究科長、常田所長、満田研究総主幹  
協定の概要説明に続き、協定書への署名が行われ、堀尾健一郎研究科長と常田佐久所長がかたい握手を交わしました。その後、堀尾研究科長は「この連携は理工学研究科の活動の範囲を広げる。お互いを刺激し合うことで教育・研究のより一層の発展を目指したい」、常田所長は「科学衛星が今後ますます大型化・複雑化していく中で、科学衛星計画を実現していくためには、全国の大学と一体となった科学衛星計画を構築し、宇宙科学の裾野を宇宙研の外に広げて、日本全体の宇宙科学力を高めたいと考えている。本協定によって埼玉大学における宇宙科学研究が更に発展し、JAXAと手を携えて日本の学術の発展に寄与することを願っている」と抱負を述べました。

締結式に引き続いて記念講演会が開催され、満田和久研究総主幹は「2020年代のスペースからの宇宙物理学…もしくは私の知りたいこと」、田代教授は「X線でみる宇宙」というタイトルでそれぞれ講演を行いました。会場を埋めた100名ほどの埼玉大学生と両機関の関係者が熱心に耳を傾けました。



▲ 来場者で一杯となった会場の様子

10  
教育

## 「学長室を絵画で和やかに」 学生に感謝状を贈呈

「部屋に学生が描いた絵を飾りたい」山口宏樹学長の想いに2人の学生が応え、学長執務室と学長応接室に飾っています。今回は、教育学部4年の水野寧々さんと大学院教育学研究科2年の渡辺麻希さんが学長の想いに応えてくれました。4月19日は、指導教員の吉岡正人教授とともに学長応接室に招き、学長から感謝状を贈呈しました。その後の歓談では、学長は「学生の絵を飾れることはとてもうれしく、いつも自慢している」と話し、作品のモデルやタイトルはどのように付けたのかなど、美術話に花が咲きました。



▲ 水野寧々さん「愛の境界線」



▲ 渡辺麻希さん「耳鳴りの像I-色がある」

11  
教育12  
教育

## 多彩な講師陣に よる講義を開講

教養学部開設科目「International Development Policy and Management」(担当：加藤基コーディネーター)は、日本と世界の結びつきを第一線で担って活躍する方々を講師にお招きし、講義や意見交換を通じてグローバルな問題を理解し、視野を広げ、自分の意見を形成



▲ 講義するイニヤンガ臨時代理大使

することを目的としており、教養学部のほか他学部の学生や留学生など多くの学生が受講しました。4月20日は、アフリカのガボン共和国大使館フランス・ベルナルダン・イニヤンガ臨時代理大使が「国際協力の展望ーガボンと日本ー」

をテーマに講義。ガボンが積極的に取り組む地球規模での環境保護や生物多様性の保全などについて幅広く講義いただきました。学生たちは、ガボンがより身近で、重要かつ友好的な関係にあることを学び、アフリカに対する視野が広がりました。6月15日は、駐日欧州連合(以下EU)代表部を訪問し、フランчесコ・フィニ公使・副代表から「The EU in the World and EU-Japan Relations」をテーマに講義を受けました。第二次大戦後のEU成立の目的、日本とEUとの緊密な関係、エラスムス留学などの説明があり、講義後はフィニ公使と学生が懇談し、学内だけでは得ることのできない有意義な時間となりました。



▲ EU代表部での講義風景

13  
教育

## 東京ステーションカレッジ移転に伴う 開所式を開催

2017年4月に、これまでJR東京駅のビル内に設置してきたサテライトキャンパス「東京ステーションカレッジ」を、千代田区神田須田町に移転しました。この新たなスタートを記念し、6月2日に開所式を開催し、本学の関係者や来賓ら25名が新たな門出を祝いました。この度の移転は、



▲ 東京ステーションカレッジ

官界や産業界の第一線で活躍する専門家に現職のまま教育研究指導に参画いただくこと、通学の利便性などを考慮したもので、JR秋葉原駅を中心に私鉄を含め5つの駅に徒歩でアクセスが可能になりました。式典で山口宏樹学長は「社会人学生だけではなく、今後は留学生を含めた在学生と協働できるような場にしていきたい」とあいさつしました。

14  
教育  
地域

## アトレ浦和 × 埼玉大学! 学生が浦和地域の魅力づくりを提案

6月9日、アトレ浦和と連携した「課題解決型短期インターンシップ」(全8回)の最終講義が行われ、学生が浦和地域の魅力づくりを提案しました。この連携は、アトレの使命である「駅と街をつなぐ」をテーマに、地域の課題解決の手助けや活性化を促す活動を通じて“その地域に貢献する”考えと、本学の教育研究機関として人材育成や共同研究を通じて地域に貢献するという基本方針がマッチングして始動。本学は、学生の将来の社会的・職業的な自立に向け、キャリア形成を促す教育プログラムとして取り組みました。今回の提案は、アトレ浦和が発行する情報紙「U LaLa(うらら)」の8月・10月・12月号に掲載されます。同紙は、アトレ浦和のHPで公開のほか店舗内などで配布されます。



▶ プレゼンテーションする学生たち

15  
国際

## 駐日コロンビア大使が 山口学長を表敬訪問

5月9日、駐日コロンビア共和国ガブリエル・ドゥケ特命全権大使一行が本学を訪問し、山口宏樹学長、中林誠一郎副学長(国際担当)らと懇談を行いました。懇談では、学術交流などを通じた連携強化について、活発な意見交換があり、今後の交流に期待が寄せられました。午後には開催された講演会「今日のコロンビア情勢:文化・経済・社会」では、ドゥケ大使から同国の多様な文化性や豊かな自然、また成長を続ける経済状況における平和実現への取り組みなど、幅広い話題について語られました。最後に学生に向けて、「好奇心を持ち続け、見聞を広げることが大切です」とメッセージを送られました。



▲ 講演するドゥケ大使

16  
国際

## 駐日モロッコ王国大使が 山口学長を表敬訪問

5月10日、駐日モロッコ王国ラシャッド・ブラル特命全権大使が山口宏樹学長を表敬訪問し、市橋秀夫教養学部長、加藤基コーディネーターと懇談を行いました。懇談では、学術交流などを通じた連携強化について活発な意見交換がありました。本学は、今年1月モロッコのムハンマド5世大学長らモロッコ教育関係公式代表団の来訪を機に、同大学との学術交流協定締結に向けて準備を進めております。モロッコは、ヨーロッパ、アフリカ、中東の交差地に位置していることから、日本企業も多く進出し産学連携も盛んなため、今後様々な分野で交流が行われることが期待されます。



▲ 握手を交わすラシャッド大使と山口学長